

大 報 おいおじぬ

◎自給作物をみなおそう
このころでは、「割に合わない」ということで、麦やその他の作物を作らない傾向があります。押麦、みそ、やさしい、なたね油、大豆、おやつにする落花生、そば、小麦、茶、くだもの、それに飼料、一年のうちには大きな現金支出です。収入を多くする工夫とともに、現金支出をなるべくへらすことも考えよう。

普及を技術と省力化の共同化

40年度農業生産計画

はじめに
町では、毎年「農業生産計画」をたてて、農業行政をすすめる基本としています。
今回、四〇年度の生産計画を中心に、町報の特集号を発行することとしました。農家は、いま非常に苦しい状況にありますが、昨年の災害をね返して、生産の増大、生産経済を安定させるために頑張ってください。次に、ことしの生活計画をお知らせします。多少時期を失したのもありますが、自家の経営計画をたてる参考としてください。

生産対策

基幹作物
(たばこ、
ぼんかん、
温州)を中心とした成長作目の生産を拡大するため、農業構造改善事業の第一次計画を円滑に実施し、大根占水田区画整理事業の第二期計画

作目別生産計画

稲作

防災営農体系を主とした生産の合理化をはかる必要がある。このため早期栽培の増反を期し、種子の更新、直まき栽培の普及、除草剤の普及、病虫害の

麦類

米の不作で食用麦の消費が増大している。収かく時期の長雨被害が予想されるので、割に被害が少なく、収量の多い大麦(ビール麦)小麦の栽培を推進する。食用、飼料用

甘しよ

甘しよは、三九年度に入ってからでん粉事情の急変によって価格が下落したが、関係農業団体と行政機関が一体と

なつて、国、県に対し強い要望を行った結果、でん粉の政府買上げが算定され、甘味資源の輸入についても検討の要があることを政府も言明しているが、甘しよの価格においては現在の支持価格三・七五キロ当り三百円を上廻ることは期待できない。

本町の甘しよ栽培は一戸当りの栽培面積が比較的多いので、栽培技術についても極めて粗放な栽培がなされ、しかも無堆肥で栽培されているのが大半を占めているので、単位収量率も低い。

従って陸稲の栽培面積が拡大し、並びにてん菜の栽培計画を考えた場合、甘しよは栽培面積を縮小し、栽培技術の改善によって単位収量率の引き上げを図ることとする。

雑穀

ア、落花生

本県の落花生は、早場地帯として商品性が高いが、栽培が自給程度で、栽培技術も粗放であり、販売するものも商人扱いで、その数量は把握されていないが、最近需要が伸びており、将来も消費拡大の方向にあるので畑作地帯を重点に優良品種の普及、省力多収栽培の推進、生産技術の改善を指導し、商品作物として奨励する。

イ、そば

そばは、気象災害を受け易く、不安定な作物であるが、栽培期間が短く一日当りの労働生産性も高いので、従来たばこ跡、早期陸稲跡に広く栽培されているが、初霜、風害

等の避けられる場所を選定して労力の許す限り栽培することを指導する。

ウ、大豆

本県産大豆は、優良なたん白源として市場性は高いのであるが、生産性が低いので、生産技術の改善と優良品種の普及が必要である。

幸い、本町は県の原種園設置、機械化栽培の指導園設置の委託を受けているので、この事業を継続実施して広く、優良種子の配布と、特にうとんじられていた病虫害の防除を指導して生産性の向上につとめる。

工業作物

ア、茶

紅茶の需要は、漸次増向にあり、生産技術も向上して、本町生産紅茶もかなり高く評価されているが、計画生産の必要に迫られてきているので県の計画に準じ、四〇年度一ヘクタールの増植をなし一方緑茶の市況に応じて、緑茶加工も行ない、農家所得の増大をはかる。

緑茶の需要は近年僅かずつ伸びているが、特に上級茶の需要が伸びる傾向にあるので摘採期の指導、加工の技術を改善して、生産性の高揚をはかる。

イ、てん菜(ビート)

総合的な畑作営農の改善を基本とした、てん菜の栽培を普及し、和牛、豚の飼料利用と地力の増進による、生産性の向上をはかるため、土壌病虫害の防除、栽培管理技術の徹底、機械化作業の普及をはかり、既耕作者の継続栽培と新規耕作者の増員、増反を推進する。

として保存します

ウ、たばこ
本町の葉たばこ生産は、県内の主要産地として、広く認識され、単位収益においても最も高く、栽培面積も著しく伸びてきたが、専売公社の生産計画が規制され、四〇年栽培面積については、当初の希望面積に不足したが、調整の結果、大体耕作者の希望する面積は確保された。しかし三十九年作における、栽培技術において、強く反省を要する事項(量目偏重を避ける。窒素過多を防ぐ)、及び省力耕作法の指導を徹底して、質の向上と土地、労力の生産性を高める。

エ、なたね

食用油脂の需要は、増加の傾向にあるが、なたねの生産気象災害は、病害虫などのため、非常に不安定な状況にあり、また貿易の自由化による油脂及び、油脂原料の輸入は増加の傾向にあるので、冬作として相当ウエイトを持つ本町なたねは、他の安定作目への転換をすすめる。

そさい
そさいは、本町の場合消費地が遠隔なため、いきおい長距離輸送にたえるものを重点に奨励しているが、特に麦、なたねの転作として冬そさいを広く普及することが、産地競争にも有利であるので、えん豆類、早堀りばれいしよ促成、抑成果さい類の面積拡大をはかる。このためには、水稻の早期栽培を更に拡大することが必要である。

花

経済の成長に伴い、国民の消費生活が向上するにつれて花卉の需要は、増大しつつあ

果樹

農業構造改善事業の第一次実施に伴い、計画面積に必要な苗木を共同購入して、共同集約管理と防風垣用苗木の共同育成を指導する。

また、第二次構造改善事業の実施予定地域の選定を行なうため、参加農家の選定にかかり、ポンカン等の栽培計画目標の達成をはかる。

温州みかん
温州は、第四地域(池田、宿利原南校区)に推進しているが、たばこ作を主体としている農家が多いので、その栽培面積においても伸び率が悪い。従って、南九州防風営農事業で集団計画のある大久保団地の本植指導と宿利原より才原に到る道路沿線一帯を第二次構造改善事業予定地として、参加農家の選定にかかり、笑喜大牧団地、神川中原団地の造成に啓蒙を行ない栽培計画目標の達成をはかる。

畜産

ア、和牛

最近仔牛価格の相場が弱含みのため、生産熱が下がり、ために全国的に仔牛の不足が伝えられている。
本町においても、三九年度は、五九〇頭に減じているが二ページへ

農業生産総括表

種別	作付面積			生産量			種別	作付面積			生産量		
	田 ha	畑 ha	計 ha	トン	単	価		田 ha	畑 ha	計 ha	トン	単	価
水稲	356.8		356.8	1,352	当		たばこ	31	124	155.0	362	K	480
普通水稲	226.8		226.8	862	98.753	86.025	なす		70	70	101.5		58.000
早期水稲	100.0		100.0	400	101.920	40.768	さや	9	53	62	930		15.500
二期水稲	30.0		30.0	90	98.753	8.887	一般豆類	18	4	22	88		20.000
陸稲		200	200.0	420	97.920	41.126	えん	40	10	50	500		40.000
麦	80.	185	265.0	452			早掘			1	40		
大小麦	10.	40	50.0	93	37.847	3.474	果菜		45		585		40.000
大麦	20.	100	120.0	202	43.183	8.723	春ばれいし		20		190		16.000
小裸麦	50.	45	95.0	157	44.950	7.063	秋ばれいし	26.5	26.5		11		100.00
甘藷		700	700.0	18,970	K当	8	ぼんかん	12.5	12.5		40		70.000
雑穀			165.0				温州牛			頭	670		30.000
落花生		35	35	40	110.000	4.400	肉豚			t	118.9		400.000
大豆		100	100	145	44.444	6.440	鶏卵			t	56.5		350.000
茶		30	30	45	55.000	2.475	飼料作物	40	211	251	7.847		
緑茶		7	7	16	41.000	656	肥料作物	210	22	232	4,301.2		
菜		33.7	33.7	103	29.000	2.986	計	785.8	2,158	2,943.8			
		25.8	25.8	600	6.450	3.870							729.710



有望な新品種『改良和田岡』

落花生のつくり方

落花生の必要性

落花生の用途は非常に多く、むき実のものからは、製油原料のほか、バター、菓子原料イリ豆として用いるなど、さらに調味料、料理の材料など広く用いられる。

また、実をとったあとのサヤも牛馬の飼料、堆肥、燃料として利用され、地上部の茎葉も緑肥、飼料用として価値が高い。

全国の消費量は、昭和三〇年に約五・五万トン、一〇年後の現在は三倍の一五万トン台なっており、急速に消費が伸びている。

外国からの輸入も少しあるが、これは主としてアフリカからの小粒種で、農林省は製油用としているため、一般用菓子原料としては内地産の大粒種を奨励しており、今後も消費は増加しよう。

◆品種
どの作物でも品種を選ぶことが大事であるが、落花生も例外ではない。

二三年前までは、地面にひろがるは性のものがほとんどであった。昭和七年から県が奨励品種に採用した「改良和田岡」は、草型が半立性であるため、栽培管理に便利であり、サヤ着きは枝の先までならず、株の根元にまとまって着生するので、実の充実がほぼ同じころとなる。また、掘り取りが従来のもものとすると五分の一の労力で済み

九月中に掘りとれる早生種であるなど、きりがいいほどよい品種である。

希望者が非常に多く、県でも在庫がいまのところない。

◎町内では、ことし六〇キロだけ確保され、大根占農協を通じて配布することとしている。

改良和田岡は、むき実の収量は、熟期のおそい千葉四三号よりはるかに多く、一〇アール当り約二〇〇キロ、サヤ実重にすると二六〇キロ、現在の価格は、一キロ当り一三〇円内外であり、粗収入約三万四千円と一般畑作物としては非常に有利な作物といえる

◆種子の選別
改良和田岡は、屑粒は割合少ない。いままでの性はもののは屑が多いので、とくに選別をよくする必要がある。色ツヤがよく、まるまるとよく充実した種子を選び、紫色の斑点のあるもの、ネズミの害を受けたものは、取り除くように注意する。

◆整地と肥料
前作物を収かくしたあとに必ず消石灰を全面に散布し、一五センチ位の深さに鋤き起した後、ていねいに土を砕いて地均しを行い、うね巾六〇センチの施肥みぞを作る。

肥料は、土地によつて違いますが、基準としては（一〇アール当）

たい肥 六〇〇キロ
硫酸 八 "

過石 二〇 "

塩加 一〇 "

消石灰 八〇 "

これは、サヤはもちろん実の充実にも大きな効果があるから落花生を作るには、必ず消石灰をやるとおぼえておくことが大事である。

堆肥は、全部施肥みぞに施し、土壌害虫の多いところでは、アルドリッ粉剤を一〇アール当り三キロ金肥とまぜてやるか、水に浸した種子に一キロの粉剤をまぶしてやるとよい。

◆種子まき

▼時期
暖かいところでは、三月中旬にできるが、一般的には四月中旬下旬が適期である。

▼種子の量
大きさを違うが、千葉四三号、改良和田岡などの大の中粒では一〇アール当り一〇リットル（五升五合）を、むき実の形でまく。これは、冬をサヤの形で過したものでないと発芽がよくない。

▼やり方
うね巾六〇センチ、株間二〇―二五センチとし、金肥と同位置にならないように、間土を三―五センチおく。

足の長さを基準に、足さきとかかとに二粒まきするとよい。土は、種子の上に約三センチかぶせる。

◆栽培管理

▼補植と間引き
品種によつても違いますが、は性のものは一本立、半立性は二本立とし、欠株が出たら本葉三―四葉位のとき、同時に補植、間引きを行なう。

中耕は六月上旬ごろカルチを行ない、七月上旬ごろまでに土寄せをすませることが大切である。

▼除草
落花生は、生育の初期は非常に伸びがよい。カルチでやる場合もあるが、除草剤を使うと株の中の草までやれるこの場合、種子から地表までの深さを必ず三センチは行うことが大事で、これより浅いと薬害を起す場合がある。

方法は、PCP水溶液を、一〇アール当り一キロ、水九〇―一〇〇リットルに溶かし噴霧機でむらなく散布する。

▼病害
発芽時の虫害（ケラ、コガネ虫の幼虫など）の防除は、アルドリッ粉剤を使用するがほかにヒメコガネの成虫が茎葉を害する場合は、BHC粉剤を一〇アール当り三キロ散布する。

病害はあまり出ないが、黒シブ病が出る場合があるのでこれには、八月中旬から二―三回（一五日前）に硫黄粉剤三キロを散布する。

◆収かく

早ければ九月下旬、種まきがおそいと一〇月上旬―中旬になるが、茎葉がきいりくなく下葉が枯れ始めた時期に掘り取る。半立性は手でかるく引き抜けるが、は性のものは万能等で掘りおこし、かけ干しか、逆さにして地干する

この後、手でモギ

（二ページから）
一昨年導入した県有貸付牛も生産年令に達してくることに母牛の管理技術の指導を行なうって、生産率を高めることによって子牛生産の増加が期待される。

また、肉牛飼育も漸次増加しつつあるが、その質においても優秀なものが、生産されるので、自給飼料の生産を普及して収益の高い肉牛生産を指導する。

豚は価格変動が激しいので飼育頭数は減少し現在生産用一八四頭、肉豚一、〇二八頭となっている。

肉豚で収益を、左右するものは、仔豚価格であるが、仔豚生産数が少ないので枝肉価格に比し、仔豚の価格は、高値をよんでいる。従つて副業養豚としては肉豚の飼養計画に基いて自給的な仔豚の生産を併せ行なうことを勧奨すると共に自給飼料の生産と併せ豊富な、でん粉粕の合理的な給与の方法を指導して生産経費の軽減をはかる。

機械にかけてサヤを落し、水洗いしたのち、四―五日間むしろ干しをし（サヤ内の子実がカラカラ音がするまで）貯蔵、販売する。

（久木井基二 県技術普及課 農業家こしま）

